

液体消炎鎮痛剤を開発

ジャパンメディック 久光製薬と共同

医薬品製造のジャパンメディック(富山市横越、前田康博社長)は、製薬大手の久光製薬と、OTC薬(薬局・薬店向け医薬品)の液体タイプの消炎鎮痛剤を共同開発した。久光製薬が「サロンパスローション」の商品名で販売し、ジャパンメディックが製造する。

ジャパンメディック(相手先ブランドによる生産)を主力として、肩こりや筋肉痛の消炎鎮痛剤には、新たに液体タイプを投入することで、消炎鎮痛剤市場で、既存の

薬のトップブランド。肩こりや筋肉痛の消炎鎮痛剤には、新たに液体タイプを投入することで、消炎鎮痛剤市場で、既存の

湿布薬との相乗効果を図る狙いがある。商品開発に当たっては、ジャパンメディックの豊富な実績に着目。平成十七年十二月に共同開発をスタートし、同社の

「サロンパス」は湿布中心に液体タイプの人気

で、約一年半の短期間で製品化にこぎ着けた。

久光製薬に対するOEMに伴い、ジャパンメディックが生産する液体タイプの消炎鎮痛剤の生産量は前年の約二倍に達する見通し。

同社の十九年二月期の売上高は約二十四億円。「サロンパスローション」を主力商品のひとつと位置付け、二十二年二月期は三十億円の売り上げを目指す。